

**日本NGO支援無償資金協力事業**  
**ニャンウー・パコク県における基礎保健サービス向上支援事業**

1. **事業の実施期間**：平成 19 年 2 月 1 日～平成 20 年 1 月 31 日
2. **事業地**：ミャンマー連邦マンダレー管区ニャンウー県ニャンウー市、マグエ管区パコク県パコク市
3. **事業内容及び実施成果**

本事業では、ミャンマー国ニャンウー・パコク住民の健康を維持促進するため、同地域基礎保健サービスの向上を事業目的に、地域保健センターの整備と診療環境の改善による診療機会拡充、地域保健センターから上位医療機関へのリファレルサービス<sup>1</sup>の構築、地域住民及び住民組織の啓発・強化による、村落ベースの保健・衛生活動の活性化等の成果を上げるため実施された。

対象地域のニャンウー及びパコクは年間降雨量が 800mm前後と東京の 3 分の 1 程度の乾燥地域で、住民は他地域でも見られる呼吸器系疾患や皮膚疾患に加え、水不足・保健衛生知識不足による下痢や赤痢などの水系感染症にも悩まされている。主な産業は農業であるが、雨期の単作が中心で一年を通して安定した収入を得ることが困難であり、かつ落花生、胡麻、タバコなど商品作物が中心であることから、相場に左右されることも多く、必要な栄養を摂取するだけの収入を安定的に得ることが難しい。住民の中でも特に 5 歳未満児の 3 割から 4 割が健康に何らかの問題を抱えるという状況を鑑み、本事業の実施に至った。

地域保健センターの整備と診療環境の改善については、2 センターを改修、1 つを新築し、医療機器及び必須医薬品を供給し、衛生的で診療に適した環境を整備した。さらに、遠隔地の住民に村落巡回医療サービスの提供を開始した。

地域保健センターから上位医療機関へのリファレルサービス構築については、搬送に個人のトラクターを利用するなどし、3 つの地域保健センターで搬送制度が確立された。

村落ベースの保健・衛生活動活性化については、基礎保健スタッフ<sup>2</sup>やミャンマー赤十字社員による、保健委員会や母親グループ等述べ 415 名の住民を対象に保健衛生についての研修を実施し、能力強化を図った。基礎保健スタッフと研修を受けた保健ボランティアを中心に、予防接種推進などのキャンペーン活動や保健教育が実施され、マラリアや下痢の予防・治療方法や経口補水塩の作り方など、住民の保健衛生知識が向上し、保健衛生への意識が高まった。

以上の活動の結果、プロジェクト対象地域の基礎保健サービスが向上するという目標は達成された。改修・新築された保健センター及び資機材は各保健局へ引き渡され、同局監督指導の下、医療サービスが提供されている。保健センター利用者は増加し、また村落ベースの保健・衛生活動の結果地域住民の保健衛生への関心の高まりが見られ、その後住民による自発的な水タンク設置や保健基金設立などの行動が観察された。

4. **NGO支援無償資金精算額**：16,819,089 円

---

<sup>1</sup> 患者の重症度に合わせて大病院へと紹介していく患者転送・受け入れシステム

<sup>2</sup> 地域保健センターで医療に携わる補助医師、保健師、助産師